

ベトナムで発見した中国以上の価値と魅力

中国を頻繁に訪れている筆者は、先ごろ、ベトナムに飛び、現地に進出している企業40社をヒアリングした。その結果、日本企業が進出するには、最適の国であることがわかったと言う。現在、「世界の生産基地」となった中国ばかりが注目されているが、実は、ベトナムには中国以上の魅力がある。

中国企業もASEANへのゲートウェーであるこの国に関心を持ち始めたほどだ。

中国進出に出遅れて焦っている企業もベトナムに目を向けてみてはどうだろうか。

「古き良き日本」を感じさせるお国柄

大手に交じって、中小企業も善戦していた。川口の日本精密。かつては埼玉県秩父市に300人ほどの工場を展開、高級腕時計用バンドのメーカーであった。人件費高騰から日本での生産を諦め、アジアの各地を調査。94年の第1次ベトナム・ブームの頃にホーチミン郊外に進出する。当初はインフラの未整備等に苦労したが、背水の陣で頑張り、現在では、高級腕時計用バンドに加え、チタンの眼鏡フレームの生産に従事している。この日本精密の場合、開発から生産まで完全にベトナムに移管している。また、周辺に外注先はないことから、金型、プレス、溶接、研磨、表面処理のすべての工程を内製化している。

現在のベトナム工場の従業員数は約1500人。完全に現地化している中小企業として注目された。私もこの30年ほど、工場を国内で約5000、海外で13000ほど訪れている。年に1~2回ほど、「現場」で背筋がゾクゾクすることがある。このベトナムの日本精密がまさにそれであった。特に、金型職場、プレス職場の若い人たちの希望に満ちた表情からは、この国の未来の可能性が伝わってきた。日本の中小企業のアジア進出も、このように本格的なものになってきたことを痛感させられた。

(出典: PRESIDENT 2003.12.1号)